メッセージ　6

ベテルの夢

聖書：創 28:10-22．ヨハネ 1:51

Ⅰ．ヤコブの夢は、神の目標の夢、すなわちベテルの夢、神の家の夢でした（創 28:10-22）。神の家は今日の召会であり（Ⅰテモテ 3:15）、新エルサレムにおいて究極的に完成して、神と彼の贖われた選民との永遠の住まいとなります（啓 21:3，22）：

A．神には夢がありました。その夢とは、神のエコノミーの究極的完成としての新エルサレム、建造された都を持つことでした。この建造とは、神を人の中へと建造し、人を神の中へと建造することです。神の建造とは神・人であり、建造の中で神は人の家であり（詩 90:1．91:1，9）、人は神の家です（イザヤ 66:1-2．57:15．ヨハネ 14:20，23．15:5．啓 21:3，22）。

B．わたしたちの夢は、神のエコノミーの究極的完成としての新エルサレムとなることです――啓 21:9-10。

C．夢の原則は、不可能な事が夢の中でわたしたちに臨むことです――参照、ルカ 1:37．18:27．ヨブ 42:2-3．詩 126:1．エレミヤ 32:27：

1．あらゆる霊的なビジョンは夢です。あらゆる霊的な経験は夢です。

2．ほとんどの天的なビジョンは苦難の時に臨みます。その時、わたしたちは人に属するものから断ち切られ、神に属するものに信頼します――参照、創 28:10-12。

3．わたしたちの霊的な命の最初の夢は、わたしたちの救いです。召会生活の中へと入って来ることは夢です。召会の実行を知ることも夢です。

4．あらゆる霊的な夢の中心は、はしごとしてのキリストであり、彼は天を地にもたらし、地を天に結び付ける方です――ヨハネ 1:51。

Ⅱ．創世記第 28 章におけるヤコブの夢は、創世記全体における最も重要な点であり、神の啓示における最も重要な言葉です：

A．キリストは、ベテルでの天のはしごそのものであり、以下のことをわたしたちに語っています。それは、神が彼の贖われ造り変えられた選民で構成された家を地上で持って、天（神）を地（人）にもたらし、地（人）を天（神）に結び付けて、両者を一にして永遠に至ることを、いかに神が願っているかということです――ヨハネ 1:51．創 28:10-22。

B．ヤコブの夢の記述において、石（11，18，22 節）、柱（18 節）、神の家（17，19，22 節）、油（18 節）は際立った項目であり、聖書が構成される基本的な要因です：

1．石は、土台の石、頂石、隅の石としてのキリストを象徴し、神の建造、すなわち神の霊の家のためです――イザヤ 28:16．ゼカリヤ 4:7．使徒 4:10-12。

2．石はまた造り変えられた人を象徴し、その人は造り変える要素としてのキリストで構成されて、神の家を建造するための材料となっています（創 2:12．マタイ 16:18．ヨハネ 1:42．Ⅰコリント 3:12．Ⅰペテロ 2:5．啓 21:11，18-20）。神の家は今日の召会であり（Ⅰテモテ 3:15）、新エルサレムにおいて究極的に完成して、神と彼の贖われた選民との永遠の住まいとなります（啓 21:3，22．ヨハネ 14:23）。

3．ヤコブは石を枕として用いました。そのことが表徴するのは、キリストの神聖な

要素が、わたしたちが彼を主観的に経験することを通して、わたしたちの存在の中へと構成され、わたしたちの安息（満足を含む）のための枕となり、わたしたちの内側の堅固な支えとなるということです――参照、マタイ 11:28。

４．ヤコブは夢から覚めた後、枕の石を柱として立てました。そのことが表徴するのは、わたしたちが経験しているキリスト、わたしたちの中へと造り込まれたキリスト、わたしたちがその上で安息するキリストが、神の建造（神の家）の材料また支えとなるということです――参照、列王上 7:17，21．ガラテヤ 2:9．啓 3:12。

５．最後に、ヤコブは柱に油を注ぎました。油は、三一の神の究極的完成として人に臨むその霊の象徴であり（出 30:23-30．ルカ 4:18）、柱は、造り変えられた人が三一の神と一であり、三一の神を表現することを象徴します。

６．その石は、ベテル、神の家となりました（創 28:17，19，22）：

ａ．神の家は、神と彼の贖われた人の相互の住まいです（ヨハネ 14:2，23）。すなわち、人は神の住まいであり（イザヤ 66:1-2．Ⅰコリント 3:16．エペソ 2:22．ヘブル 3:6．啓 21:3）、神は人の住まいです（詩 90:1．91:1．ヨハネ 15:5．啓 21:22）。

ｂ．ですから、神の家は、共にミングリングされて一となった神と人から構成されています。神の家で、神は人性においてご自身を表現し、神と人は相互の永遠の満足と安息を得ます――詩 132:13-14。

７．今日、わたしたちは召会生活において、ベテルの実際、ヤコブの夢の成就の中におり、ここには天のはしご、石、柱、神の家、油があります。これは新エルサレムにおいて究極的に完成して、永遠のベテル、すなわち神の永遠の家となります――Ⅰテモテ 3:15．啓 21:3，22。

８．神の家は、共に結合され、ミングリングされ、合併されて一となった神と人から構成されています――ヨハネ 14:23．Ⅰヨハネ 4:15-16．参照、使徒 17:24。

Ⅲ．「彼は夢を見た．見よ、一つのはしごが地上に立っており、その頂は天に達していた．すると見よ、神の御使いたちが、その上を上り下りしていた」（創 28:12）。「彼は言われた、『まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う．天が開け、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなたがたは見るであろう』」（ヨハネ 1:51）：

Ａ．はしごはヤコブの夢の中心、焦点です。この夢はキリストの啓示です。なぜならキリストは、ヤコブが見たはしごの実際であるからです。

Ｂ．キリストは人の子として、彼の人性において、地上に立てられたはしごであり、天（神）を地（人）にもたらし、地と天を結び付けて一にします――参照、ヨハネ 14:6：

１．主イエスは肉体と成ることを通して来ることによって、神を人の中へともたらしました――1:14。

２．主イエスは死と復活を通して行くことによって、人を神の中へともたらしました――14:6，20。

Ｃ．わたしたちの再生された霊は、今日の神の住まいであり（エペソ 2:22）、天のはしごとしてのキリストが立てられている地上の基礎です（創 28:12．Ⅱテモテ 4:22）。ですから、わたしたちは霊に戻るときはいつも、神をわたしたちにもたらし、わたしたちを神にもたらすはしごとしてのキリストを経験します：

１．「こういうわけで、兄弟たちよ、わたしたちはイエスの血によって、大胆に至聖

所へ入ります」――ヘブル 10:19：

ａ．今日、至聖所は天にあり、主イエスはそこにいます（9:12，24）。それでは、わたしたちはまだ地上にいるとき、どのようにして至聖所に入ることができるのでしょうか？

ｂ．その秘訣は、ヘブル第 4 章 12 節で言及されているわたしたちの霊です。天にいますキリストは、今やわたしたちの霊の中にもいます――Ⅱテモテ 4:22。

ｃ．彼は天のはしごとして（創 28:12．ヨハネ 1:51）、わたしたちの霊を天に結び付け、天をわたしたちの霊の中へともたらします。ですから、わたしたちは霊に戻るときはいつも、至聖所の中へと入ります。そこにおいてわたしたちは、恵みの御座にいる神に会います。

２．「ですから、わたしたちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか」――ヘブル 4:16：

ａ．疑いもなく、ここで述べられている御座は、天にある神の御座です（啓 4:2）。神の御座は、全宇宙に対する権威の御座です（ダニエル 7:9．啓 5:1）。

ｂ．しかしわたしたち信者に対して、その御座は恵みの御座となり、至聖所の中にある罪を覆う蓋（あわれみの座）によって表徴されます（出 25:17，21）。この御座は、神と小羊の御座です（啓 22:1）。

ｃ．天の御座に座しているキリストが（ローマ 8:34）、今やわたしたちの中に（10 節）、すなわち、わたしたちの霊の中におり（Ⅱテモテ 4:22）、この霊に神の住まいがあります（エペソ 2:22）。

ｄ．ベテルは、神の家、神の住まいであり、また天の門です。そこにおいてキリストははしごであって、地を天に結び付け、天を地にもたらします（創 28:12-17．ヨハネ 1:51）。今日わたしたちの霊は神の住まいですから、今や天の門であり、そこにおいてキリストははしごであって、わたしたち地上の人を天に結び付け、天をわたしたちにもたらします。

ｅ．ですから、わたしたちは霊に戻るときはいつも、天の門を通って入り、天のはしごとしてのキリストを通して、天にある恵みの御座に触れます。

Ｄ．このはしごがあるところに、開かれた天、造り変えられた人、この人の上の油塗り、この人による神の家の建造があります。

Ｅ．天のはしごとしてのキリストの結果は、ベテル、すなわち召会、キリストのからだです。このはしごの究極的完成は新エルサレムです。

©2026 Living Stream Ministry